

天正十三年京勝庄内を領せしれ一財本
庄^備前重長より知りて戦後比濃波より
日光院といふ別当八幡宮を付け給ふ勅使
京勝より二十二石に斗二斗又合の寄附状
を給ふ今大津山東禪寺八幡宮といふ古人
けまの山号古号といふハ誤なり大津山ハ
多海山の東にあはる山の名なり東禪寺ハ
地名なり事疑ひなり一か賀は太聖寺當由
庄内大梵寺の親寄地名なり何そハ幡
古号何んやと云く別当頼俊川系にあり
也乾院といふ川也熊野派山伏の觸乳なり
壬午一派の葬礼の導師を勤む
天和二年八月庄内巡見記に當社ハ邪王
ありと記しハハ誤なり山伏を邪王と
噴語王と見へり

一上山王 又おまをいふ

東禪寺分院後所の東にあり往古園日寺
殿の社とて社領七石八斗以来地方大所
村長市一通し面高保年中宗源宣旨よて
正一位を授けり社家一人あり